

三豊市での高病原性鳥インフルエンザの発生に伴う野鳥調査の結果について

三豊市の家きんにおける高病原性鳥インフルエンザの発生を受けて、11月14日から16日にかけて実施した野鳥調査の結果についてお知らせします。

記

1 調査結果

野鳥監視重点区域内において、渡り鳥が多く飛来するため池18箇所において、生息状況調査、死亡野鳥調査等を実施した結果、死亡個体の発見等の異常は確認されませんでした。

(参考) 野鳥調査で観察された鳥類

区分	種数	具体的な種名
検査優先種1	7種	ヒドリガモ、キンクロハジロ、カイツブリ、カンムリカイツブリ、ユリカモメ、オオタカ、ハヤブサ
検査優先種2	5種	マガモ、オナガガモ、ホシハジロ、オオバン、フクロウ
検査優先種3	14種	カワウ、アオサギ、ハシビロガモ、コガモ、カルガモ、オカヨシガモ、ミコアイサ、アメリカヒドリ、ハジロカイツブリ、セグロカモメ、トビ、ミサゴ、ハイタカ、チョウゲンボウ
計	26種	

※ 検査優先種とは、香川県高病原性鳥インフルエンザ対応マニュアル(野鳥編)において感染して死亡しやすい種を中心に設定(裏面)

2 今後の対応

- ・引き続き、野鳥監視重点区域において、野鳥の監視を継続します。
- ・なお、5例目(三豊市発生)に関する野鳥監視重点区域内における3日間の野鳥生息調査については、先に発生した1例目(三豊市発生)、3例目(三豊市発生)、4例目(三豊市発生)の野鳥監視重点区域と調査範囲が重複する部分が多いことから、環境省の指示により、実施しません。

検査優先種

検査優先種1(17種) 目的:早期発見のため		* 高病原性鳥インフルエンザ(H5 亜型)に感受性が高く、平成 22~28 年の発生時を合わせた感染確認率が 5%以上であった種。	
目・科	種	目・科	種
カモ目カモ科	シジュウカラガン	カイツブリ目	カイツブリ
	マガン	カイツブリ科	カンムリカイツブリ
	ヒシクイ	ツル目ツル科	ナベヅル
	コブハクチョウ(※1)		マナヅル
	コクチョウ	チドリ目カモメ科	ユリカモメ
	オオハクチョウ	タカ目タカ科	オオタカ
	コハクチョウ	ハヤブサ目ハヤブサ科	ハヤブサ
	オンドリ		
	ヒドリガモ		
	キンクロハジロ		
重度の神経症状が観察された水鳥類(※2)			
検査優先種2(11種) 目的:さらに発見の可能性を高めるため		* 過去に日本と韓国等において死亡野鳥で感染確認のある種を含める。	
目・科	種	目・科	種
カモ目カモ科	マガモ	タカ目タカ科	オジロワシ
	オナガガモ		オオワシ
	ホシハジロ		ノスリ
	スズガモ		クマタカ
	トモエガモ	フクロウ目フクロウ科	フクロウ
ツル目クイナ科	オオバン		
検査優先種3 目的:感染の広がりを把握するため		* 水辺で生息する鳥類としてカワウやアオサギ、検査優先種 1 あるいは 2 に含まれないカモ科、カイツブリ科、ツル科、カモメ科の種を、また鳥類を捕食する種として検査優先種 1 あるいは 2 に含まれないタカ目、フクロウ目、ハヤブサ目の種を対象とした。	
目・科	種	目・科	種
カツオドリ目ウ科	カワウ	チドリ目カモメ科	上記以外全種 (セグロカモメ、ウミコ等)
ペリカン目サギ科	アオサギ	タカ目タカ科	上記以外全種 (トビ等)
ツル目ツル科	上記以外全種 (クサビ等)	フクロウ目フクロウ科	上記以外全種 (コノハシ等)
カモ目カモ科	上記以外全種 (カガモ、マガモ等)	ハヤブサ目ハヤブサ科	上記以外全種 (チョゲンボウ等)
カイツブリ目 カイツブリ科	上記以外全種 (ハシロカイツブリ等)	タカ目ミサゴ科	ミサゴ
その他の種			
上記以外の鳥種全て			

※1外来種

※2 重度の神経症状とは、首を傾けてふらついたり、首をのけぞらせて立っていられなくなるような状態で、正常に飛翔したり、採食したりすることができない状態をいう。